

## ずいひつ No.135

2018年11月25日発行

## 祖父の勲章と、調べ物をしたはなし

序 昔の写真を、見つける



最近、断捨離の一環で写真を整理した。その中から出てきた、祖父との写真の話だ。

私は胸に勲章をつけている。祖父は長いこと消防団の団長をやっていたので、その功績から、勲章を貰い、天皇陛下にお会いしたことがあるのだった。

さてこの勲章は何だったかな。祖父は「女の子は、こっち」と言っていて、胸につけてくれたな。(もらった勲章は2つあり、もう一つは男子のみ、つけられるものだった。そちらは写真も残っていない。)祖父はもう、とうに亡くなってしまったけれど、祖母はこの勲章をまだ、床の間にしつかり飾っているのかな。

しかしこの勲章は、どうい

種類のものなんだろう。気になる。少し、調べてみることにした。



一 物事を、調べる

「知りたい」と思った物事を調べるには、どうするか。ネットでググる？誰かに聞く？それも手である。しかし、目当ての情報がかちんと得られるかは、ものによる。特にネットは、ろくに精査もせずに、コピーで載せているだけのものも、とても多いのだ。

せっかく調べるのだったら、きちんとした情報を得たい。それには「辞典や《関連文献》から調べる」という方法がある。ネットも調べるが、関連文献も順を追って調べ、情報の精度を上げていこう。

二 勲章を、調べる

〜インターネットで

で、「勲章」だ。手掛かりは、写真が一枚あるきりだ。祖父の家に行けば、もっと情報はあろうが、鳥取県だ。遠い。即、見に行くと言うわけには行かない。だとするとどうするか。もう一度記憶をたどってみる。

祖父が勲章を貰った当時、私は小学生だった。「ずいほうしよう」と聞いた覚えはある。だが漢字もわからない。褒章では勲章ではないのか？でも勲章を貰ったと聞いた。まずは、勲章制度から調べてみよう、となった。国の制度であれば、インターネットのほうが、本より更新が早い(はず)。まずはGoogleで「勲章制度」を検索。内閣府に「勲章・褒章制度の概要」があった。

「受章者は、大勲位菊花章、桐花大綬章、旭日大綬章及び瑞宝大綬章を、宮中において天皇陛下から親授され、旭日重光章及び瑞宝重光章を…」

《瑞宝大綬章》《瑞宝重光章》この辺りが怪しい。しかし、「ず

いほうしよう」そのものではない。「勲章の種類及び授与対象」も見てみる。その中には、瑞宝章がある。おそらく、これだ。けれども、「勲章の種類(瑞宝章)」の詳しいページの写真を見ると、形は同じだが、リボンの色が違う。

いろいろとサイト内を読み込んでみると、「栄典に関する資料集」の中に、「栄典制度の改革について(平成14年8月7日閣議決定)」があった。どうやらそのときの閣議決定で、制度改革があったらしい。では、「勲章の旧制度」を調べる必要がある。次は文献をあたることにした。

三 勲章を、調べる〜文献で

文献を調べるには、図書館などの書架に直接見に行っても良いけれど、本は物理的に場所をとるので、全てがその場にあるとは限らない。また、この本の、この文献と決め切れない場合もある。

そんなときは、国立国会図書

館の「リサーチ・ナビ」を利用すると、こういった文献から当たっていけばいいかの目当てがつけやすい。

リサーチ・ナビの検索ボックスに「勲章制度」と入れてみる。国立国会図書館が作成した「勲章と褒章（日本）」という〈調べ方案内〉が運よく見つかった。これは、関連資料・情報の入手方法をまとめたものである。

「3・1・2・平成14（2002）年以前の勲章・褒章」という項目がある。まずはこれから当たってみよう…。

#### 四 本を、借りる

国立国会図書館に蔵書があるのはわかったが、そちらへ直接行って借りるのは、所在地的に、なかなか敷居が高い（東京なので）。そんなとき「公共図書館」に蔵書がないか探す、という手がある。もちろん、愛知学院大学学生なら、大学図書館で探してもいい。

名古屋市図書館のサイトか

ら、詳細検索をする。『勲章』（毎日新聞社 1976）については鶴舞と熱田に1冊ずつ、『日本の勲章』（総理府賞勲局 1989）については、鶴舞に1冊あることがわかった。早速予約を申し込む。

名古屋市図書館は、〈愛知県内に在在、在勤、在学〉なら貸出券も作れるし、各区どの図書館の本でも取り寄せてもらえるので助かる。年報によると、平成29年度は、市内全館で326万5608冊の蔵書を有していたらしい。全国的に見ても、多いほうである。

3日ほどで予約資料確保のお知らせが来た。すぐに借りに行く。

#### 五 勲章の本と、勲章と

そうして、ようやく目当ての本を閲覧できた。『勲章』の24〜31ページに「瑞宝章」の写真がある。リボンの色も同じ。

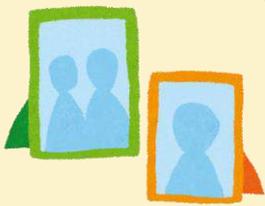
……これだ。

リボンは三角で、胸につけるタイプ。勲四等〜六等の瑞宝章のどれか。勲七等・八等は、勲章自体の形が違う。勲四等も、リボンの上の飾りが多いので違う。勲五等か六等のどちらかで、その違いは、勲章自体のサイズと、略綬の線の数のみ……。

やはり、最終的には、実物のサイズを調べる必要がある。しかし、サイズさえ分かれば、この勲章がどの勲章かが分かる。

これで、すっきりした。祖父は勲五等または六等の瑞宝章を授与されていたのだ。瑞宝章は、「公共的な業務」に長年にわたり従事して功労を積み重ね、成績を挙げた者を表彰する、のだそう。

写真を見ると、祖父は誇らしげに微笑んでいる気がする。私はこの写真を、大事にとっておくことにした。



### 結びに変えて ～国立国会図書館デジタルコレクションを楠元図書館で見る～

今回閲覧した『日本の勲章』は、鶴舞図書館にありました。しかし、重要なところに不備があり（ページが切り取られていた）、新たに本を取り寄せようにも、「名古屋市内にはこれ一冊しかありません」といわれ、途方に暮れました。結果として『勲章』の方に、同じ瑞宝章の写真が載っていたので、それで事なきを得たのですが、絶版本の入手・閲覧は、書籍の不備によっても行き詰ることがあります。

こんな時に助かるサービスが国立国会図書館（NDL）にあります。NDLが収集・保存しているデジタル資料を検索・閲覧できるサービス《[国立国会図書館デジタルコレクション](#)》です。

さて、歯学・薬学図書館情報センターは10月から、このデジタルコレクションの「[図書館向けデジタル化資料送信サービス参加館](#)」に承認されました。これは、NDLが収集・保存しているデジタル資料のうち、[《絶版等で入手困難な資料》](#)に限り、承認を受けた図書館内で利用できるサービスです。

もし、調べ物をしている際に、国立国会図書館のデジタルコレクションに行き当たり、さらに「[国立国会図書館／図書館送信限定](#)」と記載された資料にぶつかった場合、一度楠元図書館へいらっしやってみてください。こちらで貴重書・絶版書が閲覧できる場合もありますよ。

(にわか名古屋人・M)

※注意）利用できる方は、教職員（非常勤含む）、院生、学部学生、専攻生、研究生、研究員、臨床研修医、名誉教授、本学卒業生のみです。

また、利用端末は楠元にあります。